

# 災害への対応について

富山大学医学部小児科 足立雄一

日本アレルギー学会 災害時WG 委員長

日本小児アレルギー学会 災害対応委員会 副委員長

日本小児臨床アレルギー学会 災害対応委員会 委員長

# アレルギー疾患における災害への対応

## 備え

- 自治体
- 医療機関
- 家庭
  
- 薬剤、ア用食品の備蓄
- 良好なコントロール状態の維持
- アクションプラン

## 発災後

- 超急性期
- 急性期
- 亜急性期～慢性期
  
- 病院での診療、相談窓口
- 避難所での生活や診療
- 医薬品／ア用食品の調達

# 大規模災害対策における アレルギー用食品の備蓄に関する提案

- アレルギー対応食備蓄についての基本的な考え方
  - 目的：各避難所においても、食物アレルギーを有する者（小児・成人とも）に安全な食品を提供する
  - 備蓄品目：食品表示法に規定されたアレルギー特定原材料・及びそれに準ずるもの（特定原材料等27品目）を含まない食品（以下、アレルギー用食品）
  - 備蓄量：**総備蓄食の25%以上**を目安とし、全ての避難所で入手可能なことを目指す

# 大規模災害対策における アレルギー用食品の備蓄に関する提案

- 乳アレルギー用ミルク
  - 目的: 乳アレルギーを有する乳児への主食提供
  - 品目: 乳たんぱく質消化調製粉末、調製粉末大豆乳
  - 備蓄量: **備蓄用ミルクの3%**
- アレルギー特定原材料不使用アルファ化米
  - 目的: 食物アレルギーを有する者への主食提供
  - 品目: アレルギー用アルファ化米
  - 備蓄量: **備蓄するアルファ化米の100%**

アレルギー疾患のこどものための

# 「災害の備え」パンフレット

日本小児臨床アレルギー学会




2018.7

# 発災後 急性期～亜急性期

災害派遣医療スタッフ向け  
アレルギー疾患  
対応マニュアル

【成人】喘息への対応	01
【小児】喘息への対応	03
アトピー性皮膚炎への対応	05
アレルギー性鼻炎・花粉症への対応	06
アレルギー性結膜炎・春季カタルへの対応	07
食物アレルギー（アナフィラキシー含む）への対応	08

 発行 

一般社団法人  
日本アレルギー学会

公益財団法人  
日本アレルギー協会

2017.4

災害派遣医療スタッフ向け  
アレルギー児  
対応マニュアル 

- 気管支喘息（吸入ステロイド薬 用量対応表）
- アトピー性皮膚炎
- 食物アレルギー


 日本小児アレルギー学会

2015.7

# 発災後 避難所向け

## 災害時のこどものアレルギー疾患 対応パンフレット



日本小児アレルギー学会  
平成 29 年 11 月改訂

初版 2011年

災害時アレルギー対応

## アレルギーのこどものために

食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎などのこどもたちは、避難所などの食事や環境によって病気が急に悪化することがあります。

- ◇食物アレルギーのこどもがいたら行政担当者に知らせ、アレルギー対応食の支援を受けてください。

必要な除去食の内容(例:卵と小麦はダメ)やアドレナリン自己注射薬(エビペン®)を携帯していることなどの情報を行政担当者に伝えてください。



アレルギー用

- ◇アレルギーの原因となる食物、ほこり、ペットを避けましょう。



- ・支援食配給時、食物アレルギーのこどもに配慮をお願いします。
- ・炊き出しなどで調理に使っている食材を詳しく伝えましょう。
- ・マスクなどでほこり、煙、粉塵を避けて、ペットは室外で避難させましょう。

- ◇治療に必要な電源や水、スペースを優先して使用させてください。

- ・ぜんそく患者は電動の吸入器を毎日使用することがあります。
- ・毎日の清拭(ぬれタオルでやさしくぬぐうこと)やシャワーは、アトピー性皮膚炎の治療に必要です。

- ◇ぜんそく症状やアナフィラキシーがあるときには、すみやかに診察を受けましょう。

- ・ぜんそく:強い咳き込みやゼーゼーする呼吸がある場合。
- ・アナフィラキシー:食後に、急に咳き込み始めたり、強い腹痛や繰り返す嘔吐がみられた場合。エビペン®はなるべくその場で使用しましょう。



災害時のこどものアレルギーに関する相談窓口(無料)  
▶メール相談: sup\_jasp@jspaci.jp



日本小児アレルギー学会  
ホームページURL: <http://www.jspaci.jp/>



# 熊本地震

- 前震の後に本震
- 交通の便は比較的早期に復旧
- 一部の病院機能が完全にストップ
  - － 熊本市民病院NICUなど

## 熊本 大地震続発

### 震度6強 死者25人に



阿蘇大橋が崩落し、国道325号が途切れていた。16日午前6時1分、熊本県南阿蘇村、本社へりから、高橋雄大撮影

朝日新聞

2016年(平成28年)4月16日 土曜日

号外

朝日新聞

020-33-9977

http://www.asahi.com

朝日新聞

速報も詳細もデジタル版で

16日午前1時25分ごろ、熊本県熊本地方を震源とする強い地震があり、熊本市や同県南阿蘇村などで震度6強を観測した。同日午前3時分ごろにも、同県で震度6強の地震が発生。同県と大分県などで多数の住宅が倒壊し、警察などによると、同日午後1時半までに熊本県で16人の死が確認された。14日以降の死者は計25人となり、約900人の重軽傷者も出ている。

気象庁によると、16日午前1時25分の地震は、阪神大震災（1995年）級の規模の推定マグニチュード（M）7.3で、震源の深さは約12㌔。同庁はこの地震を、14日に震度を観測して以降に発生した一連の地震の「本震」とする見解を示した。

最初の震度6強の後、午前1時46分ごろと午前9時58分ごろにも震度6弱の揺れをそれぞれ観測。14日夜以降、16日正午までに、最大震度が6弱以上の地震は本震を含めて計7回発生した。

同県警の正午現在のまとめでは、110番通報は県内で、生き埋めや下敷き10件、家屋倒壊や閉じ込め118件、火災9件などがあった。同県南阿蘇村では字生らに住むアパートが倒壊した。12人が生き埋めになり、消防などが救出したが、1人が心臓停止状態。政府のまとめでは、同県内で655カ所、約6万9千人が避難している。南阿蘇村では、同県宇土市の市役所庁舎も損壊した。JR九州は16日の始発から九州新幹線の運転を見合わせている。熊本空港も施設の損傷などで閉鎖されている。



# 小児アレルギーエデュケーター (日本小児臨床アレルギー学会)

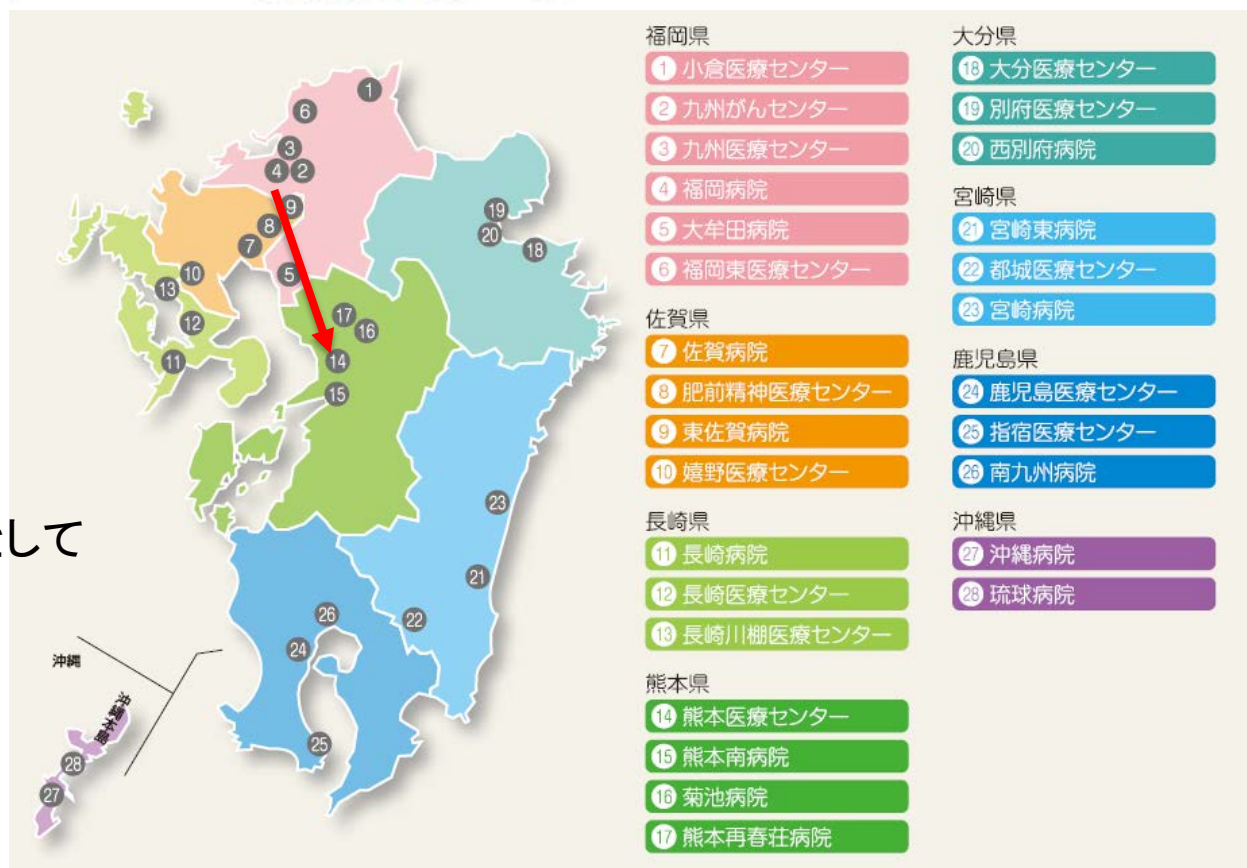
- 看護師
- 薬剤師
- 栄養士



国立病院機構  
福岡病院で仕分け



国立病院機構  
熊本医療センターを拠点として



# 災害時の医療支援

## 小児アレルギー疾患への対応

超急性期：  
救助活動、集団外傷への対応

食物アレルギー患者の食料確保

急性期：  
疾患をもつ被災者の急性増悪

喘息急性増悪や  
アナフィラキシーへの対応

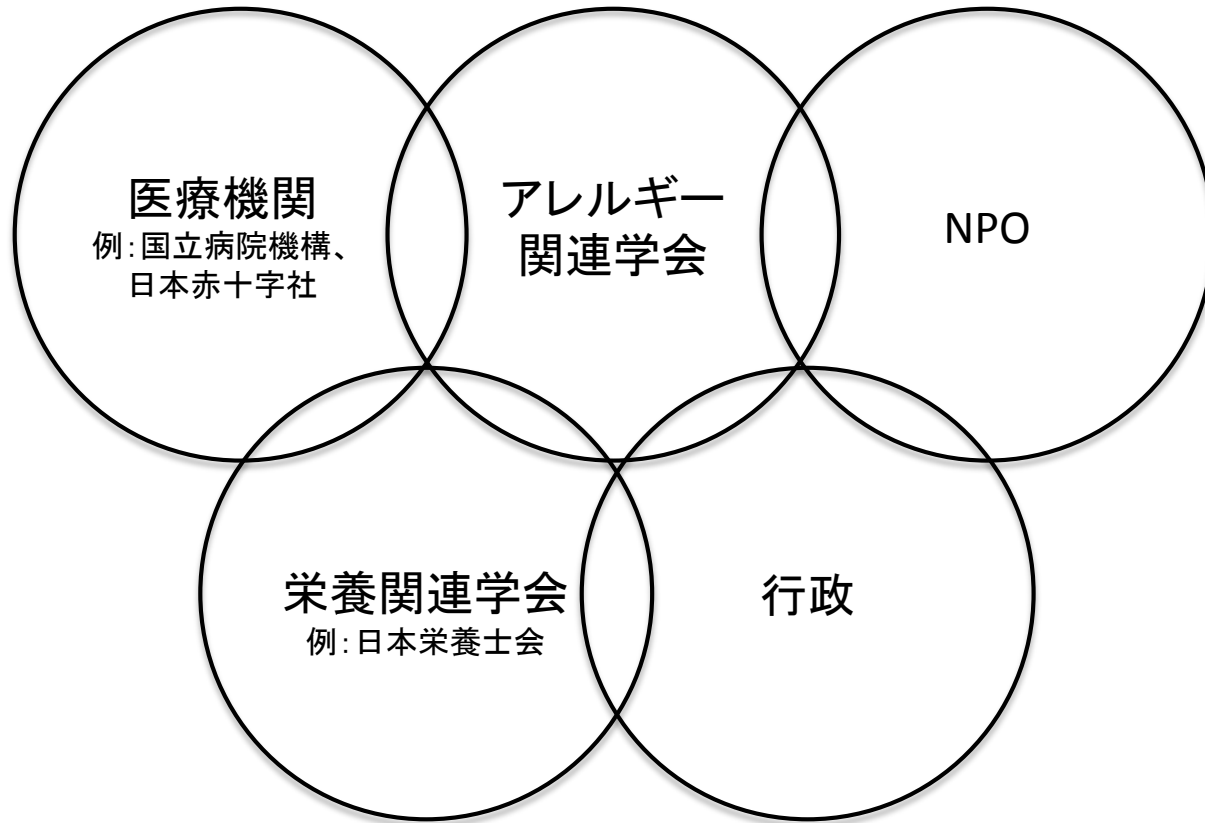
亜急性期：  
被災による二次的障害、慢性疾患の悪化

アトピー性皮膚炎や  
アレルギー性鼻結膜炎の増悪予防

慢性期：  
避難生活での健康問題、慢性疾患管理

長期管理治療のサポート

# 災害時のアレルギー児支援連携と学会の役割



## 学会の役割

- アレルギー児支援ネットワークの構築
- アレルゲン除去食物供給体制
- アレルゲン児への対応の啓発
- 吸入器などの供給手配
- 専門家としての助言
- 専門家としての現場支援

# アレルギー疾患拠点病院における災害対応(私案)

## 備え

- 自治体
- 医療機関
- 家庭
  
- 薬剤、ア用食品の備蓄
- 良好なコントロール状態維持
- アクションプラン

## 発災後

- 超急性期
- 急性期
- 亜急性期～慢性期
  
- 病院での診療、相談窓口
- 避難所での生活や診療
- 医薬品／ア用食品の調達

患者への教育

医療従事者への教育

+

都道府県を超えた連携(ネットワークづくり)

# Take Home Messages

- 災害に向けて、学会等が既に提言や資材作成を行なっている
  - 行政におけるアレルギー対応食の備蓄に関する提言
  - 医療従事者・患者・行政向けの資材(マニュアル・パンフレット・ポスター等)
  - 保健指導マニュアルも作成中
- 過去の支援活動の経験から、アレルギー関連学会・医療機関・栄養士関連学会・NPO(患者会など)の連携が重要である
- 今後、行政と各種団体が連携したネットワーク作りが必要となる